



第
2530
地区

福島西ロータリークラブ会報

ロータリーは
機会の扉を開く

令和2年10月12日(月) 第11回 通算第1575回例会

会長 黒澤 信之
幹事 佐藤 慶行

クラブ奉仕委員会
委員長

高橋 智弘

会報・雑誌・広報・
IT小委員会委員長

根本 いずみ

・例会日/月曜日12:30 ・例会場/ウェディング エルティ ☎(024)535-6188

事務所/福島市万世町2-5 福島銀行本店9F ☎(024)536-1010・FAX(024)536-1011 Eメール/f-rotary@guitar.ocn.ne.jp

第11回例会 点鐘12:30

- ◇開会点鐘 黒澤 信之 会長
- ◇国歌斉唱、ロータリーソング「我らの生業」
ソングリーダー 佐藤 卓立 会員
- ◇お客様並びにビジター紹介
- ◇会長あいさつ 黒澤 信之 会長



週末は、台風14号が列島に接近し、最大級の警戒が呼びかけられていましたが、幸い、心配された被害もこちらまではさほどの影響もなく、会員の皆様も胸をなでおろしていることと思います。思い出してみますと、列島に甚大な被害を及ぼした昨年の台風19号が猛威を振るったのは、まさに、ちょうど一年前の10月11日～12日でした。阿武隈川も計画高水位を超え、県庁裏の紅葉山公園も全体が池のようになって3年前に分区で記念植樹したもみじも水につかっているほどでした。台風は、ほかの自然災害と異なり事前に予測ができるため、備えや避難をする時間があることから、人々の意識次第で少なくとも人的被害を軽減することは可能といわれていますが、今回は、台風情報までもがコロナウイルスの影響を受けていたそうです。通常の台風の進路予想は気象衛星の情報に加えて、付近を運行する航空機や船舶からの情報も駆使しているとのことが、コロナ終息の兆しが見えない昨今、LCCが日本から撤退するという事態が起きるほどに、飛行機も飛んでいない、船も出ていないことが台風の進路予想を難しくしたとのことでした。台風シーズンはまだしばらく続きますので引き続きご用心いただきたいと思ひます。さて、10月は、ロータリーの経済と地域社会の発展月間となっています。マイロータリーの掲載をご紹介させていただきます。10月は「経済と地域社会の発展月間」です。国連は、ミレニアム開発目標において、地域社会と経済を進展させるには、貧困問題の解消、女性の地位向上(エンパワメント)、グローバルなパートナーシップ、環境の持続可能性が必要であるとしています。また、2014年国連進捗レポートによると、極度の貧困者数が半減、労働市場における女性の地位が上昇、テクノロジーの使用(インターネット利用者約30億人、携帯電話利用者70億人)が上昇しており、途上国の借款は安定した状態を保っています。しかし、国連が新たに発表した「持続可能な開発目標」からもわかる通り、なすべきことは多くあります。「経済と地域社会の発展月間」の今月、各地域社会で引き続き、地域社会の発展を支える活動をご支援いただけますよう、お願い申し上げます。女性の地位というワードは常にカギになっているように感じますが、同じくマイロータリー

に掲載されております情報を紹介いたしますと、本年度のRI会長ホルガークナーク氏が、ジェニファージェーンズ氏を2022-23年度の会長ノミネーとして正式に宣言しました。カナダ、オンタリオ州のウィンザーローズランドロータリークラブ会員のジェニファージェーンズ氏は115年に及ぶロータリーの歴史の中で初めての女性会長になるとのことです。

～ジェーンズ氏のコメント～

ロータリーの行動計画は、ロータリーによるインパクトを高めるための推進剤であるとジェーンズ氏は話します。「新しい戦略的優先事項を検討する中で、近年の歴史の中でも紛れもなく最も重大な時期に、ロータリーの『適応力』が私たちの道しるべになろうとは誰も予想していませんでした」と、自身のビジョンの中でジェーンズ氏は述べています。「希望の兆しは最も困難な状況から生まれるものです。測定可能な目標を基軸として、私はこの歴史的な状況を生かし、今日の現実を反映した機会をとらえ、培い、伝えていきます」女性初の会長に指名されるにあたり、ジェーンズ氏はロータリーの「多様性、公平さ、開放性(DEI)に関する声明」の重要性を理解しています。「多様性、公平さ、開放性を最優先し、女性会員や40歳未満の会員を増やすには、まずリーダー陣がこれを実践し、そのメンバー構成に反映させていく必要があります」とジェーンズ氏。「どちらの目標でも2桁の成長を目指し、決してロータリーファミリー全体を見失わないようにします」当クラブも女性の活躍が目覚ましい成果を出しており、女性が活躍しやすい環境が整ったクラブであると日々感じておりますがいかがでしょうか。クラブ力強化、会員拡大を図っていく上で、ぜひ、女性会員の増強も念頭に置き、一会員一推薦の実践をお願い申し上げます、会長挨拶とさせていただきます。

◇幹事報告 佐藤 慶行 幹事

○例会変更のお知らせ

- ・福島東RC、16日(金)の例会はクーラクーリアンテサンパレスにて夜間例会に変更となっております。
- ・福島RC、18日(日)の例会は、創立70周年記念事業「ジュディ・オング氏講演会」となっております。メーキャップ希望の方は事務局までお知らせください。

○その他のお知らせ

- ・10月ロータリーレートは1ドル105円となりますのでお知らせ致します。

委員会報告

◇米山記念奨学会小委員会 大平 謹一郎 委員長

11/8(日)14時より郡山市立中央公民館にて米山記念奨学会学友主催、2020-21年度奨学生による体験発表会がごございます。参加希望等ございましたら、事務局までお知らせください。

◇会報・雑誌・広報・IT・小委員会 高橋 智 弘委員長
 ○黒澤信之会長＝福島稲荷様の例大祭に参加してまいりました。今年はコロナ禍において連山車、露店もないさみしいお祭りでしたが、五穀豊穰、えき病退災を祈念してまいりました。

○梅津一匡会員＝来週は新会員スピーチの機会をいただき、ありがとうございます。現在まだノープランです。

○宮崎秀剛会員＝本日も宜しくお願いします。

各セミナー報告によせて

- 高橋智弘会員 ○佐藤慶行会員 ○相澤 隆会員
- 大平謹一郎会員 ○久米允彦会員 ○佐藤卓立会員
- 佐藤宗弘会員 ○野尻榮一会員 ○根本いずみ会員

本日のスマイリングBOX集計12件 24,000円
 ご協力頂きました皆さん、ありがとうございました。

◇本日のプログラム——セミナー報告

○社会奉仕・国際奉仕セミナー 佐藤 卓立会員



9月5日土曜日にビッグパレット福島にて開催されましたRI第2530地区 2020-2021年度社会・国際奉仕委員会セミナーについてご報告させていただきます。例年ですと社会奉仕・国際奉仕委員会セミナーは別々に開催されていましたが、今年度は地区委員会が社会・国際委員会となり、地区協議会のリモートでの分科会でも同時に開催され今回セミナーもそれぞれの委員会で2部構成となり当日朝9時30分～12時30分までの3時間の開催でしたが、何年ぶりかで中抜けなく参加させていただきました。今年度の開催場所は新型コロナウイルス感染症の感染予防に考慮して、例年郡山の南東北総合卸センターでの開催でしたが、参加者が密にならないように広い会場のビッグパレット福島で開催され、受付には非接触型の体温計での検温、体調の問診。会場内参加者全員マスク着用で、100名を超える参加者が密にならないように席の間隔をとりコロナ禍に対応した会場設営でした。セミナーの内容ですが、はじめに石黒ガバナーより開会点鐘、挨拶があり、次に平井義郎バスターガバナーより地区研修リーダー挨拶、その後国際奉仕委員会セミナーとして私も以前地区大会か社会奉仕委員会セミナー等で講義を聞いた事がある弘前アップルロータリー会員でRI第2830地区バスターガバナーの開場慶博氏による「ポリオ根絶プログラムの現状と課題」の演題でセミナーがありました。開場慶博氏自身が福島医大卒で福島県の医療機関に何年か勤務され福島県が第2の故郷という思いがあり、現在放送中の福島市出身の作曲家古関裕而氏を題材にした『エール』を毎日楽しみに見ていると話されていました。福島県との関わりの中でセミナー講師の依頼については喜んでお引き受けしたとも仰っておりました。ご自身の海外での奉仕活動についての話しに続き、ポリオ根絶プログラムの現状の講義では、感染経路・治療と予防法、ポリオウイルスの種類、自然界におけるポリオウイルスの残存、経口生ポリオワクチンと不活化ポリオワクチンの違い、ポリオの海外・日本における最新の動向等をプロジェクターを使用して私達にもわかるように丁寧に講義をしてくださいました。2015年9月に2型野生株ポリオウイルス根絶が宣言され、2019年10月に3型野生株ポリ

オウイルス根絶が宣言され、残るは1型野生株ポリオウイルスとワクチン由来のポリオウイルスだけとなり、根絶に向けた活動としては現在パキスタンやアフガニスタンなど国内治安が不安定な国で活動が困難な地域と新型コロナウイルス感染症拡大の為、海外での活動が制限される等、諸問題がありますが、ポリオ最終根絶計画2019～2023年に向け引き続き活動されるとの事でした。また自身の国際奉仕活動の話を交え各クラブの国際奉仕活動計画の参考にしていただきたいと話されておりました。休憩をはさみ、社会奉仕委員会セミナーⅡが開催され講師に福島民友新聞社執行役員編集長小野広司氏より「震災から10年」の演題で講義がありました映画『fukushima50』の原作『死の淵を見た男 吉田昌郎と福島第一原発』の作家門田隆将氏の著書『記者たちは海へ向かった津波と放射能と福島民友新聞』に書かれている内容について、ご自身が体験した2011年3月11日以降の様々な窮地を当時から現在までの出来事について話を聞き、改めて「職業奉仕とは、社会奉仕とは、」について考えさせられ、とても有意義なセミナー参加だったと思います。以上、社会国際奉仕委員会セミナー報告でした。

○職業奉仕委員会セミナー 渡辺 敬 藏会員
 代読 黒澤 信之会長

9月26日、郡山ユラックス熱海で開催された職業奉仕委員会セミナーについてご報告致します。石黒ガバナー、平井地区研修リーダーの挨拶の後、初瀬職業奉仕委員長から主催者挨拶および講師紹介がありました。石黒ガバナーから「福島職業宣言について」、職業奉仕委員会委員長の初瀬照夫氏から「職業奉仕は未来への挑戦であり信念であり確信である真っ直ぐな道は迷わない」、そして職業奉仕委員会副委員長の齋藤純一氏からは「職業奉仕の入り口」の演題で講演がありました。石黒ガバナーの「福島職業宣言について」では、「職業奉仕」の理念の歴史的変遷についてのお話の後、原発事故から10年の節目となる今年、私達は、「余の為人の為」の奉仕の理念を深く胸に刻んでいるロータリアンであり、職業を通じて業界へ、愛する郷土のために、気持ちを新たに胸に刻む1年としたい。また、深泥豊かな人情味あふれる福島をよりステージを上げて次の世代に！、とくくっている。初瀬職業奉仕委員会委員長からは、「職業奉仕は将来良い社会が創造できるという信念であり、将来への貢献であり、そして将来に対する確信である。真っ直ぐな道は迷わない」の演題で、職業奉仕についての考え方が紹介された。ロータリーの目的については1935年、「ロータリーの目的は意義有る事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある：第1に知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること、第2に職業上の高い倫理基準を保ち・・・第3・・・、第4・・・」とした。2013年に改訂されたが、内容はほぼこれを踏襲している。職業奉仕の実践として「四つのテスト」があるが、ロータリーの文献の翻訳の決定権を委譲された手島知健氏の試案では、

1. 真実かどうか 嘘はないか？
2. みんなに公平か 誰かに不公平ではないのか？
3. 好意と友情を深めるか 敵意と憎悪を招かないか？
4. みんなのためになるかどうか 誰かの不利にならないか？

ロータリーの友1954年11月号となっている。？マークを付けると分りやすくなるのではないかとこのことで

◇閉会点鐘 黒澤 信之会長
 ※会報カメラ担当 根本 いずみ会員